

科目名	歴史Ⅰ History I			担当教員	與田 純		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11120003	単位区分	履修単位
学習目標	歴史Ⅰは世界史、特に近代西洋史を学習する。これからの時代は国際化社会の時代である。諸外国の歴史を学ぶことを通じて、国際社会にふさわしいものの見方や価値観を身につけることを目標とする。特に西洋の歴史を批判的に検証することによって、日本人が意識的・無意識的に内在化してきた「西洋かぶれ」の傾向を修正し、複眼的な視点に立つことの重要性を認識してもらいたい。						
進め方	基本的に講義形式で進めるが、「ノートを取って、暗記する」だけの受動的な学習方法では試験に対応することはできない。学生諸君には、授業への積極的な参加を要求する。また、史料や絵画など多様な文献を読み解くことを通じて思考力を養い、音楽・映像教材などを用いて授業の理解を深めてもらう。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ローマ帝国の興亡（15） （1）都市国家ローマの誕生 （2）共和政時代 （3）帝政時代 （4）ローマ帝国の滅亡とその影響			ローマ帝国の歴史の概要と、共和政から前期帝政を経て後期帝政への政治体制の変化の原因・特徴を理解する。ローマ帝国がその後の世界に及ぼした影響について理解できている。 学習・教育目標：（A）			
	前期中間試験						
	2. 大航海時代と世界の一体化（15） （1）スペイン・ポルトガルの海外進出 （2）新大陸の植民地化 （3）英・仏・蘭の海外進出 （4）大西洋三角貿易			ヨーロッパ世界の飛躍の契機である大航海時代と新大陸の植民地化の原因と概要を理解し、現代世界への影響を説明できる。大西洋三角貿易の成立背景とその後の影響を説明できる。 学習・教育目標：（A）			
	前期末試験						
	3. イギリス産業革命（15） （1）イギリス産業革命 （2）交通革命 （3）工業化の明暗と社会主義思想の誕生 （4）大英帝国の形成			イギリスの産業革命の概要と産業革命が世界に及ぼした影響について説明できる。産業革命の社会的・技術史的な意義と、それが引き起こした様々な社会問題を理解できている。 学習・教育目標：（A）			
	後期中間試験						
	4. アメリカ独立戦争と人種問題（15） （1）アメリカ独立革命 （2）環大西洋革命 （3）南北戦争と南部の人種隔離政策 （4）公民権運動			アメリカ合衆国の歴史の概要を把握するとともに、白人と先住民、黒人との人種問題の根源を理解する。特に独立宣言の国内的・世界的な意義と問題点、その克服の過程を説明できる。 学習・教育目標：（A）			
	後期末試験						
評価方法	・評価の内訳は、発表点と小テスト等を10%程度、定期試験結果を90%程度とする。 ・学習項目ごとの全体評価への重みは、1.～4.のそれぞれについて25%、25%、25%、25%とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	歴史Ⅰ（1年） → 歴史Ⅱ（2年） → 人文科学Ⅲ（4年）						
教材	教科書：北村正義編『新編 世界の歴史』（学術図書出版）資料集：『世界史タペストリー』（帝国書院）ワークノート：『世界史トレーニングノート』（山川出版）。その他、参考図書を随時紹介する。						
備考	歴史を題材とした映画・小説等に積極的に触れて欲しい。お薦めの作品は授業で随時紹介する。						